

第2回西脇市教育振興基本計画策定会議 会議録

開催日時	令和4年12月13日（火） 午前10時～正午
開催場所	西脇市役所 大会議室
出席委員の名前又は人数	9人
欠席委員の名前又は人数	2人
出席職員の職・名前又は人数	11人
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	2人
議題又は協議事項	(1) 市民アンケート調査の速報について (2) 第3期教育振興基本計画指標の中間報告について (3) 国の第4次教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方
会議の記録（概要）	
発言者	<p>○開会</p> <p>○教育長あいさつ</p> <p>日頃から教育行政の推進に大変なご協力を賜り、また、この計画策定作業にご尽力を賜り、心から感謝申し上げたい。前回会議においては、市民アンケート調査について、委員の皆様方から貴重なご意見を多数いただき、先月実施することができた。未来においては、どんな家族のかたちになっているか、また、どんな地域のかたちになっているか、支える環境がどのようになっているか、学校はどんなシステムに変わっているのか、このようなことを想像しながら本計画に盛り込んでいくべきと考えている。本日は市民アンケート調査結果のご報告と今期計画の指標の中間報告について、様々な視点から積極かつ忌憚のないご意見を賜り、第4期西脇市教育振興基本計画の策定作業を進めていきたい。</p> <p>○議事</p>

事務局	(1) 市民アンケート調査の速報について ・資料1に基づき説明
会長	非常に貴重なデータだと思う。速報について、他市との比較等も交えて説明いただいた。せっかくの機会なので、本日参加の委員の方にご質問、もしくは感想を一言ずつお願いしたい。全員にご発言いただくと思う。
委員	アンケート調査結果を見て最初に思ったのが、年齢層の高い方々の回答が多い。教育となると、親世代の意見が大切だと思っている。できればもう少し年齢層の低い30代から40代の小学生・中学生・高校生の親世代のご意見が生かされたほうが良いと思っている。
会長	最終的には年代ごとのデータは出るのか。
事務局	3月頃に開催予定の次回の会議時に、改めてクロス集計も全てお出しした報告書の説明をさせていただく。その時にご確認いただけると考えている。
会長	ご年配の方が回答した結果なので、特に小中学生のお子さんがいらっしゃる方との違い等がそこでわかれば良いと思う。
委員	有効回答数の36.7%が少ない。若い方はお忙しくてなかなか回答できなかったのかと思った。この結果が全てではなく、回答していない方々の意識をもっと知りたい。回答に地域差があるので、地域での考えも知りたいと思った。
会長	私の経験からすると、このような郵送法で4割近く返ってくるのは、かなり成績が良いように思う。芦屋とか他のところはどうかなのか。
事務局	芦屋市も2,000配布して807なので、4割いくかいかないくらいである。
会長	事務局にお聞きしたい。年齢や地域別の比率からすると、ミニ西脇市になっているのか。
事務局	2,000人を今の西脇市の人口に値するように割り振ってアンケート調査を行っている。だいたい今の西脇市の割合で実施しているのご理解いただきたい。回答は高齢者が多い結果にはなっている。
会長	極端な偏りはないのか。回答は高齢者が多い感じか。
事務局	人口比率から言っても高齢者の回答数が多かったと考える。

会長	<p>またクロス集計等で見していきたい。</p>
委員	<p>結果を見ての大雑把な感想だが、主に3つのことを市民はおっしゃっていると個人的に思った。1つは、全ての子ども達が自分の可能性に挑戦し続けられるような力、環境、例えばこれまで市が英語検定等に補助を入れてそのチャンスを与えてくれた、そのようなことへのニーズ。2つ目は、誰も取り残さないという点において、特別支援や福祉の連携、教育相談体制の充実等をお望みだと思った。3つ目は、これまで学校もしくは生涯学習課から提供されるような学びがあったと思うが、それだけではなく、民間の力も入れながら、その人の最新の学習履歴が実際の生活や仕事に生かされるようなまちであってほしい、というニュアンスも感じた。この振興基本計画を立てる前に市が学校規模適正化について、今後5年から20年後を見据えて議論して下さっていたが、それが大きな力になっていると思っている。</p>
委員	<p>アンケートを概ね拝見して私の想定外ということではなく、例えば思いやりがある子ども、主体的な行動力・判断力、課題としては問題行動やいじめ、不登校、子ども達のコミュニケーション能力低下を心配していること等、改めて数値化されるとなるほどと思いながら見ている。これからの時代の変容に対応することを十分に心がけながら、私達大人が経験したことのない情報の津波の中で子ども達は大人になっていくし、ますますICT、デジタルが進化していく。だからこそ、リアルなコミュニケーションや言葉かけを大切にし、どんな時代になってもぶれることのない普遍的なテーマや教育観が太い幹となって提案できるようにすることが必要だと思った。ますます対面でのコミュニケーションが希薄になる中、芯となる部分はテーマや教育観を共有できたらと改めて感じた。</p>
委員	<p>岸本委員がおっしゃったように若い方、特に子育て世代の方々の意見をもう少し聞きたいのが第一番の感想である。これも次回の会議時のクロス集計結果を楽しみに待ちたいと思う。それから、西脇市の子ども達の教育について一番が思いやりのある子、それから自ら判断し主体的に行動する力がある、という項目が高い数字になったことは、変わりつつある教育の中にあっても基本の理念が大切であると安心した。全体の課題がここにあがってきている。それと同時に、幼児期の重要性をさらに感じた。自由記入欄がアンケートの最後についているので、その意見内容も可能であればお聞きしたい。</p>
会長	<p>自由回答も3月にはご紹介いただけるのか。</p>
事務局	<p>カテゴライズした形でお出ししようと思っている。</p>
委員	<p>回答者の年齢層が高いので、子育て世代に多く回答してもらおう方法はどうかと思った。2世帯・3世帯家族の回答者も多いが、核家族も増えていると思う。9から10ページの地域の方とのつながりのあたり</p>

委員	<p>で、普段から地域の子どもに声かけをしたり、通学路における登下校時の見守り活動に参加してみたい方が多い。もっと地域の方とつながりを深めていただけるようなきっかけができればと思った。</p> <p>19ページの就学前教育の結果は、私達現場で思っているものと少しズレがある。もちろん、あいさつやルールの規範意識の育成等は、ずっと前から家庭から学校へと役割が移ってきているので、それはもう当たり前のことかと思っている。私自身はそうは思わないが。実際にもっと伸ばさなければいけない部分は、遊びや体験活動を通した学びの充実とか、子どもの主体性・思考力を伸ばす教育の充実のあたりで、もっと就学前教育のあり方を市民の方に理解してもらわなければいけない。そこが足りていないから、重要性を理解してもらっていない。学びや体験活動が小中学校へあがった時に豊かな創造性や、今進めなければいけない学力的なものを培っている。そうでないと、そこで発揮できない現状があると思う。そのような点で就学前教育の重要性をもっと啓発してほしい。市全体でそこを伸ばすことによって、西脇市の活性化等に最終的につながるのではないか。今後は基本的な部分での教育をしっかり伸ばしてほしい。</p>
副会長	<p>私も皆さんの考え方と同じだが、違う観点から見ると例えば5ページや3ページに他市町との比較があるが、子どもの学力低下で芦屋市より20ポイント低いとある。このあたりで他市町についてもう少しわかれば、教えてほしい。回答は3つ選択することになっているが、子ども達のコミュニケーション能力の低下が高くなれば、他を選択する人が少なくなるのではないか。どれかが高くなればどれかが低くなるのは当たり前で、子どもの学力低下が芦屋市より20ポイント低いとあるのは、ここまではないのではないかと思う。7ページにある川越市との比較も、非行・いじめ問題への適切な対応をするという項目も、20ポイント近く西脇市が低いとある。これが良いのか悪いのかの判断に迷っているところである。全体の感想としては、社会教育の面で文化財の認知度については、広報紙で広報している順に認知度が高いと思われるのではないか。マスコミ等の取り上げ方によって、随分違ってくるのではないか。</p>
会長	<p>事務局にお聞きしたい。3択で選んだ場合、どのように見れば良いか。</p>
事務局	<p>例えば、5ページの間10「コロナ禍における子どもたちへの教育について不安に感じていること」で、子ども達の学力低下が芦屋市と比較して正確には18.2ポイント低くなっている。第1回目の会議で本アンケート調査票を委員の皆様にご審議いただく中で、子ども達のコミュニケーション能力の低下は西脇市の調査項目でのみ新たに追加したものであり、あくまで芦屋市と同一の調査項目でないことが一点ある。それと、芦屋市の調査は令和2年7月から8月にかけて実施されており、調査期間も違っている。芦屋市はコロナが出始めた頃の調査</p>

<p>会長</p>	<p>で、今はコロナが割と一般化されてきた社会情勢もあり、そのような点での意識の差もあると思う。あくまで参考程度で留めていただければと思う。</p> <p>私からも感想を何点か。1つ目は、どういう子ども達に育てたいかは、勉強や体力だけではないということ。ある意味、教員の責任は非常に重い。ただ勉強を教えるとか体育で身体を鍛えるといった以外の部分をかなりカバーしている感じがする。先ほど篠原委員もおっしゃったように、幼稚園も同様である。単にあいさつできるようになるだけでなく、他のことをこれから期待されているということだと思う。そのようなことを考えた時に、学校園の中だけでは無理だと感じる。特に地域の皆さんと連携することで、そういった力も高めていくことが重要ではないか。2つ目は、学力の項目でかなり上下することが気になった。3ページの「どのような子どもになってほしいか」の項目で「確かな学力がある」は非常に低い。他市でこの類の調査をした時に、どれくらいのポイントになるかわかれば教えてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>芦屋市では「確かな学力がある」は18.6%なので、11.2ポイント低い結果となっている。</p>
<p>会長</p>	<p>20ページのデータを見ると、「学力の向上」がトップになっている。これも同じような調査で他市町との比較はないのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>こちらは調査項目や選択肢の変更があったので説明ではご紹介していなかったが、参考までに裾野市と比較すると「学力の向上」が10.9ポイント高い結果となっている。</p>
<p>会長</p>	<p>「こんな子どもに育ててほしい」という項目では低いが、やはり小中学校のメリハリとしては「学力の向上」だとおっしゃっているのかと。もう少し詳しくみていかないとわからないが。冒頭に岸本委員がおっしゃったように、これは高齢者のご意見なのか、まさに子育て世代のご意見なのかは見てみないとわからないが、学力のところがいったりきたりすることが興味深い。皆さんからのご意見にもあったように、また3月の確定値ではクロス集計等を交えながら、より良く中身を見ていけるような状態にできれば。ただ、アンケート調査は現状をみるものであり、今回の会議は今後10年について考えるものなので、現状は参考として今後についてのご意見を出していただければと思う。</p> <p>○議事</p> <p>(2) 第3期教育振興基本計画指標の中間報告について</p> <p>・資料2に基づき説明</p>
<p>事務局</p>	
<p>会長</p>	<p>主な点だけ説明いただいた。指標なので、1つの目安である。さらにコロナの影響があるため、なかなか読み切れないところがある。た</p>

	<p>だ、今後策定していく計画の一つの有用な参考資料だと思う。何かご意見、ご質問はあるか。</p>
委員	<p>調査はあくまで一つの目安とのことだが、随所に出てくる「まちづくり市民アンケート」も今回のように無作為抽出か。</p>
会長	<p>これはどのようなアンケートなのか。市民アンケートは、全数調査はまずしないので、統計的な無作為の抽出調査だと思う。何年に1回されているのか。</p>
事務局	<p>毎年取っていると認識している。</p>
会長	<p>他にいかがか。これは、今後計画を策定するにあたって別になる資料だと思うので、随時疑問等があればその時にご質問いただきたい。</p>
事務局	<p><b>○議事</b>  <b>(3) 国の第4次教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方</b>  ・資料3・当日配布資料に基づき説明</p>
会長	<p>説明いただいた国の方向性のⅡ「今後の教育政策に関する基本的な方針」に5つ入っている。委員の皆様にも1つ2つ注目したい点について、ご発言いただきたい。もちろん全部必要なわけだが、特に西脇市においてポイントだと思う、関心がある点について順にお願いしたい。</p>
委員	<p>西脇市も少子高齢化の状況がある。高齢者と子ども達のお互いが社会貢献できるような、社会に必要なとお互いが思えるような西脇市になれば良いという感想である。そういう意味では、「リカレント教育」も充実しないといけない。少子化は避けられない中で、西脇市全体で高齢者も子ども達も学びお互いが社会貢献できる点に注目したい。</p>
委員	<p>少し離れるかもしれないが、私の地域では週に3回高齢者の方々がお互いにできることを提供しあって、できることをされている。月に1回のカフェには子ども達も入っている。そのようなことを自主的にされていることに希望が持てる。年に何回か文化的なものを発表して、地域の方や子ども達が見に行ったりしている。</p>
委員	<p>教師の指導力の向上、教育環境の整備については、引き続き大きな柱の1つとして取り組む必要があると感じている。指標にもあったように、まだまだ目標に到達していないかもしれないが、力点を置いたことについては進歩がみられると思う。一方、子ども達で夢を持っている子が減っているところは、単にキャリア教育だけではなく、今回の4番の可能性の追求が誰にも保障されるという部分に、家庭の経済力等も含めてまだまだ課題があるのではないかと感じる。小学校1年</p>

委員	<p>生の学習に対する校内研修の中で、就学前のことをたくさんお話させてもらうが、こども園で課題解決の学習を一生懸命取り入れておられる。そのような部分については、もっと努力して市をあげて取り組んでいきたいと思っている。</p> <p>コミュニケーション力についての心配が多かったが、本市では学力向上ウィーク等で菊池省三先生等を招いて9～10年になる。その結果だと思いが、子ども達の自己肯定感が上向きになってきていることは、成果としてあると思う。子ども達にとってリアルな対面的なコミュニケーションがいかに大切か、我々大人がそれをいかに意識していくかが大切だと実感している。「教師のウェルビーイングの確保」とあるが、教師自身もコミュニケーション力を意識することで、教師も上機嫌で子どもとコミュニケーションが取れる。結局のところ、そのことが学力の向上や子ども達の可能性を伸ばす基盤にもなる。①の「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」については、私も注目している。</p>
委員	<p>アンケートに「遊びや体験を通した学びの充実」を入れてほしいとお願いしていた。篠原委員はこの項目の数値が低いとおっしゃっていたが、①の「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」にも関係して、若い子ども達の学びをしっかり充実させていくこと、安定感をつけていくことが大切であるという観点から、「教師のウェルビーイング」も含めて①に注目している。②の「グローバル化する社会」の「地球環境問題」については、最近特に関心を持っている。社会では子ども達もそのような活動をしている。是非、西脇市でも未来の子ども達の環境についても取り入れて進んでいけば良いという感想である。</p>
委員	<p>③の地域のつながりを大事にしていけないといけないと思う。地域には協力的な方も多くてありがたいが、これからの子ども達のことをもっと考えてくださる方が増えると、子どもも地域もお互いに思いやりの心が育まれるのではないかと思う。</p>
委員	<p>全ての人の可能性を引き出す学びと言うか、子どもを中心とした学びをもっと考えていく必要があると思う。それと同時に先生方への投資の意味で、先生方の質を上げていき、子ども達が可能性を伸ばせるようなものを提供し続けることが、市の教育の一つの大きな目標かと思う。そのような面で、人を大切にしていければ。確かにICTも必要かと思うが、その基盤にあるのは人である。人が使っていくものを大切にしてもらえれば。</p>
副会長	<p>西脇市は、割と地域人材が揃っていると思う。学校教育、また社会教育に関心を持たれている方が随分多いように感じている。このアンケートではないが、黒田庄地域だけのアンケートを我々がした時に、何か事があれば協力したいと思われている方が72.8%あった。非常に</p>

<p>会長</p>	<p>心強い限りである。その人達の力をもっと施策的に活かしていくと良いのではないか。スポーツの一般化が叫ばれているが、それを1つとっても地域の力を活かしていけば良いし、人とのコミュニケーション能力も学校内だけでなく地域の人との関わりを持つことによって、どんどん育まれていく面もあると思う。そのあたりが活かされてくれば、西脇市も良いまちになるのではないか。</p> <p>副会長がおっしゃったことは、私もそう思う。西脇市は川越市や芦屋市と比べるとかなり田舎だが、そんなに田舎ではない。人口減も急激ではなく、地域もまだ生きている。そういう意味では西脇市は今後可能性があるのではないか。核家族化して地域の協力が得られないような場所ではない。かといって、子どもの数もある程度いる。第4期の教育振興基本計画では、西脇市ならではの可能性に是非チャレンジしたい。そのような計画になればと思う。いろいろなキーワードがあったが、何とかそのあたりを上手く西脇市風に加工して進めれば良いのではないか。他にご意見がなければ、その他に移りたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当日配布資料に基づき説明</li> </ul>
<p>事務局</p>	<p>第3回策定会議については、3月中旬頃の開催を予定している。日程調整の上、皆様にご連絡させていただく。</p>
<p>事務局</p>	<p>○ 閉会</p>